



10/28 第4回デザインワークショップ開催！

校舎の具体的な使い方をみんなで考える。

新しい学びの空間、桜紫モール

これまで「高松第一高等学校デザインプロジェクト」では、5月・6月・7月・10月に全4回のワークショップを展開してきました。1回目では「一高の現在と未来を考える」、2回目では「デザインゲームの実践」、3回目では「共用空間をデザインする」というテーマを設定しました。そして10月28日に開催された第4回ワークショップ「新校舎における経験をデザインする」というテーマです。

また、ワークショップだけでなく、高松一高での実際の学校生活を観察する行動調査を実施しました。7日間、一高の校舎に赴き、一高の生徒・教師たちが今の校舎でどのような生活を行っているか、どのように校舎を使っているのか、などを写真撮影や生徒・教師へのインタビューを通して、観察しました。実際の一高での生活を目の当たりにしながら、新校舎のデザインに関する発見が数多く得られる貴重な機会となりました。特に「傘立てに腰掛けて友達と話す」、「窓越しに友達と会話する」といった生徒の皆さんのありふれた生活の風景が後に教室の姿を大きく変化させる発見となったのです。

行動調査で実際に一高の生活を観察してみると、普通教室を単なる「授業を行う場所」ではなく、「生徒や先生

の日常生活の場」としての役割を果たしていることがわかりました。そこで普通教室を実物大で再現し、「日常的な居場所」として検討する試みを行っています。教室の大きさ・ロッカー・黒板等の実物大のモックアップを作成し、実寸での使い方などを検証しています。

こうしたデザインプロジェクトで得られた、様々な生徒・教職員のみなさんの意見や思い、行動などは設計会議で検討されている新校舎のデザインを大きく変える原動力となりました。実際にワークショップで出てきた意見である、「廊下・教室前にベンチを置く」といったアイデアと行動調査で得られた「傘立てに座る生徒」の様子、実物大検討実験で先生のアイデアとして出てきた「シューズロッカーを廊下に出す」といったアイデアが結びついて、「教室の前に腰掛けられるシューズロッカー」が実現することとなっています。その他にも、みなさんの意見をもとにして、様々な部分で一高にしかない新しい空間が計画されています。今年の3月に基本設計が固まり、実施設計の検討が行われていきますが、みなさんの協力のおかげで素晴らしい校舎のデザインを行うことができました。



先生と生徒が協力して、新校舎の具体的な使い方をデザインしました。



テーマ 『新校舎における経験のデザイン』

場所： 高松第一高校 大会議室

日時： 16時30分～18時00分

参加者： 高松第一高校 在校生13人 教職員5人

開催内容

第4回ワークショップでは、「新校舎における経験のデザイン」というテーマを設定し、ワークショップ参加者と、新校舎でどのような学校生活が過ごせるか、どのような活動が行えるか、ということをもとに具体的にデザインする試みを行いました。

このワークショップの主な目的としては

- (1) 新校舎に対して、「自分達の欲しかったものが実現しているか、思い描いていた生活が送れるか」についての評価
 - (2) 新校舎を使った一高らしい活動のデザインを通して、新校舎の必要なもの・改善すべき点の発見
- という2つがあげられます。

前回までのワークショップ、行動調査で得られた生徒・教職員の意見を元に、新校舎での多様な活動の可能性を示し、その具体的な使い方・活動のデザインを通して、新校舎に対するさらなる要望・提案のアイデアを引き出すためのワークショップを展開しました。

行動調査

9/24-9/30の7日間、一高にお邪魔し、みなさんの不断の学校生活での行動を観察させていただきました。調査を通して、思いがけない校舎の使い方・活動を発見し、様々なデザインのヒントを得ることができました。



傘立てをベンチ代わりにして友達と英単語の暗記



文化祭の写真を見ながら、先生と生徒がおしゃべり



教壇に座り込んで、弁当を食べたり、自習をしたり



廊下から窓越しに他のクラスの友達と会話している生徒



大学の研究室と合同で授業。大学生と協力してグループワーク



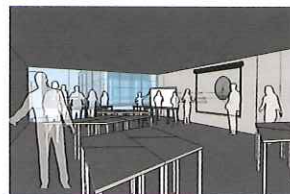
来年の発表に向けて、グループに分かれて研究活動

ワークショップの流れ

16:30 これまでのデザインプロジェクト
これまで、デザインプロジェクトで展開してきた、全3回のワークショップ、行動調査・実物大モックアップ検討実験についてその内容・得られた成果のふりかえりを行いました。

新校舎での経験のデザイン

17:00 イントロダクション
今回のワークショップで行う、「経験のデザイン」について、どのようなグループワークを行うか、という説明や、門内研究室で作成した、新校舎での活動のデザインの例などを示しました。



17:10 テーブルセッション
「新校舎のデザインレビュー」と「一高らしい活動のデザイン」という2つの課題に取り組み、新しい校舎のデザインのアイデアを集めました。



17:40 全体セッション
班ごとにテーブルセッションで集めた意見を発表してもらいました。

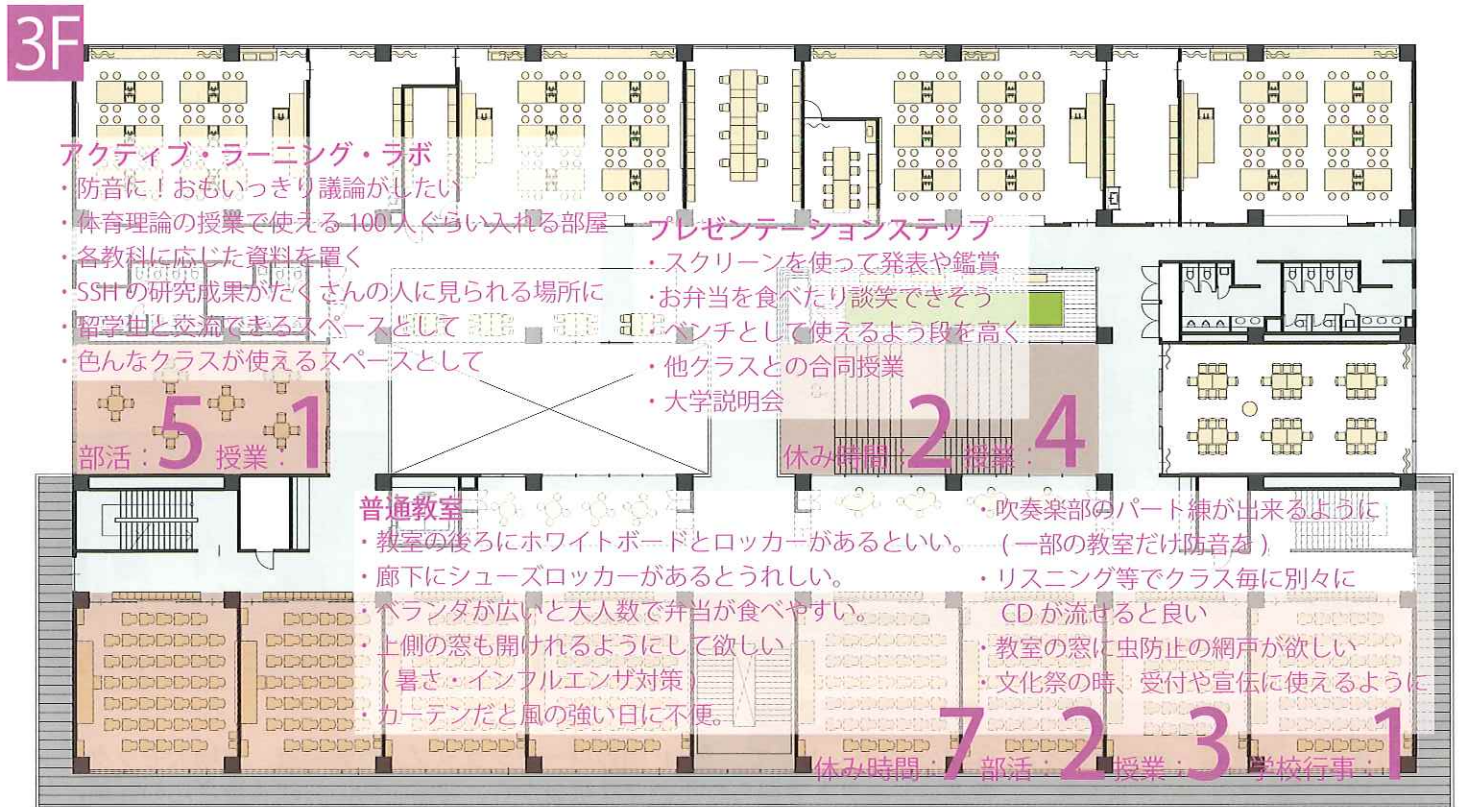
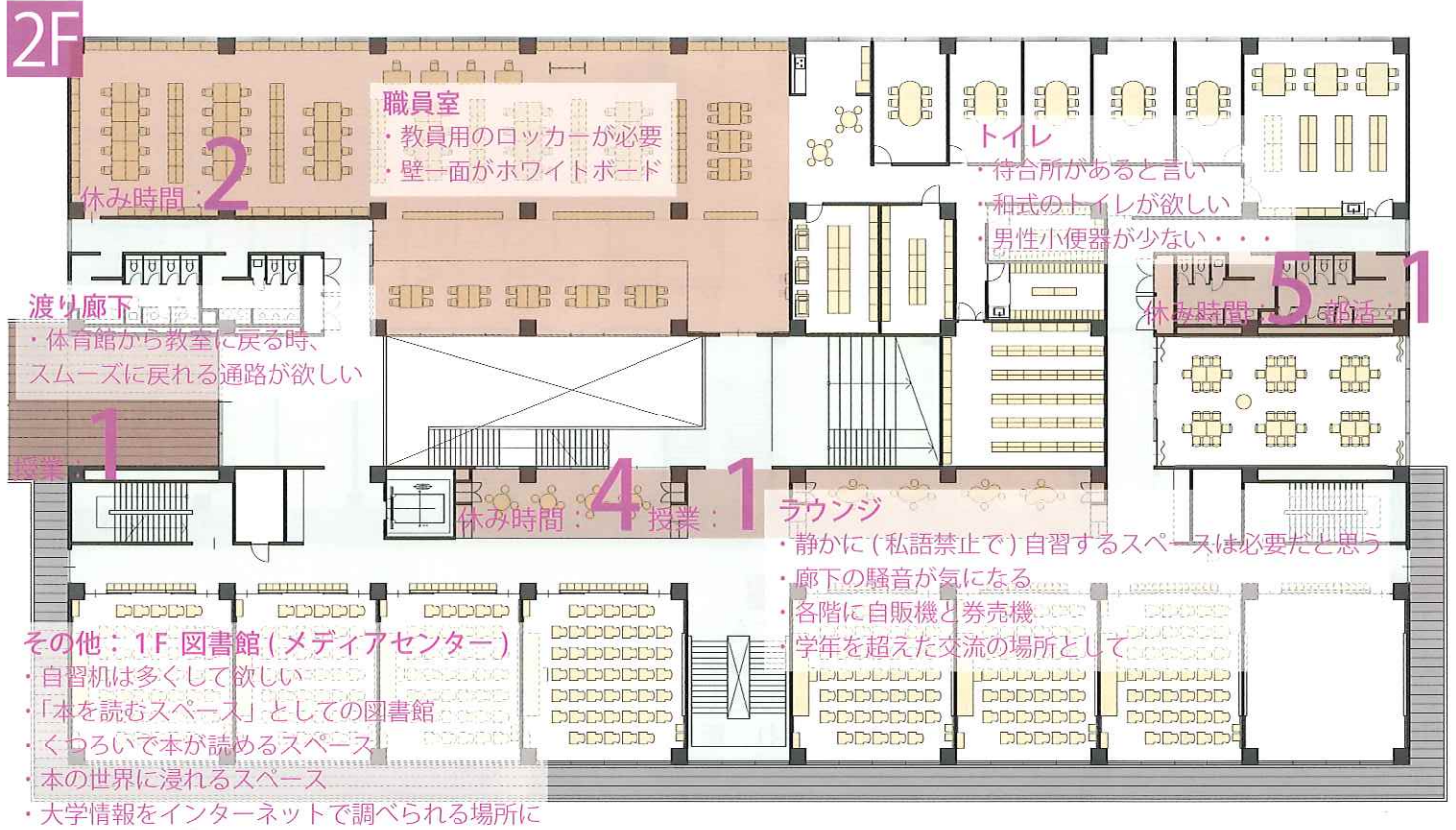


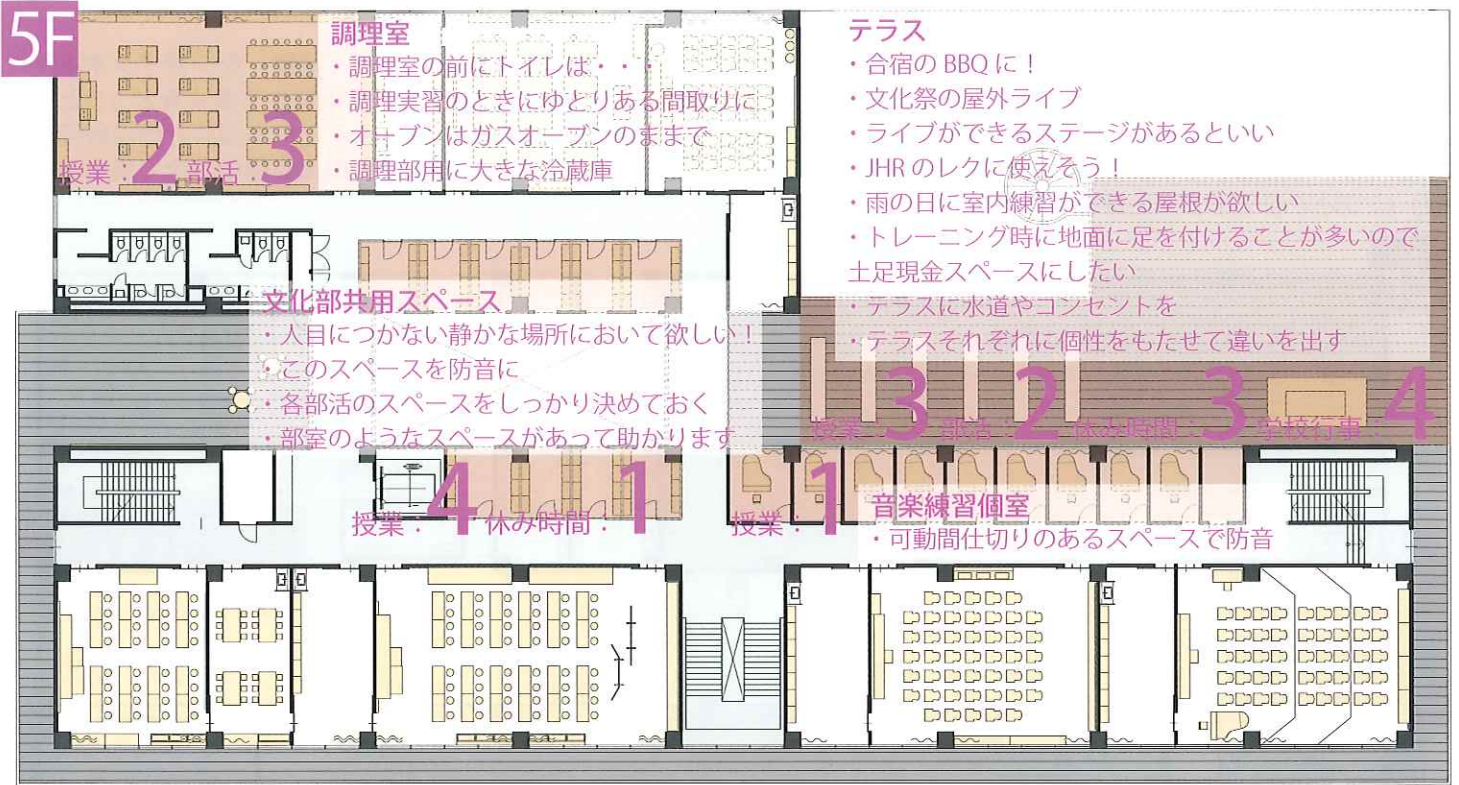
17:55 まとめ

18:00 閉会

■ 新校舎に対する評価・経験のアイデア

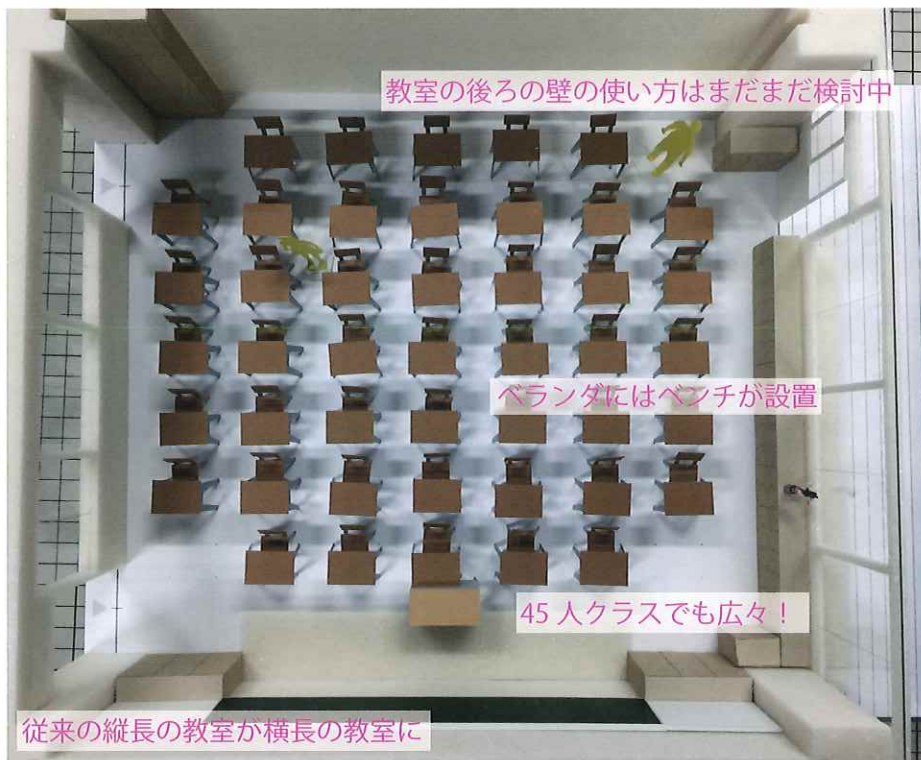
今回のワークショップでは、新校舎における具体的な活動・空間の使い方や設えといった「経験」をデザインする試みを行いました。高松一高の学校生活から「授業・休み時間と放課後・部活動・学校行事（文化祭や卒業式など）」といった4つの場面を取り出して、それぞれの場面についての新校舎の「経験」を参加者のみなさんと日本設計と門内研究室が一緒になって議論を行いました。そこで得られた意見・アイデアをまとめると、同じ場所でも様々な場面で全く異なる「経験」についてのアイデアを得ることが出来ました。





新しい校舎の教室

学校生活を送る上で普通教室は生徒のみなさんにとっても、多くの時間を過ごす、なじみのある居場所としての役割を果たしていることが、これまでのワークショップや行動調査を通して分かってきました。その成果を踏まえて、新校舎のデザインを議論する設計会議でも普通教室の議論は繰り返し行われ、様々な案が提案されてきました。その結果、12月中旬に開かれた会議で、ようやく一つの案に絞り込まれ、新しい普通教室の姿が明らかになりました。



おわりに

これまで、「高松第一高校デザインプロジェクト」として、全4回のワークショップ、行動調査、実物大モックアップによる検討実験を行ってきました。このプロジェクトで得られた色々な意見から、日常生活における皆さんの経験に基づいて建築空間をデザインしていくところに、ワークショップ・観察・実験・ニュースレター刊行などを含むデザインプロジェクトの大きな役割があるといえます。プロジェクトに参加していただいた一高の皆さんによって形作られた、素晴らしい未来の校舎のデザインが実現することを願っています。1年間、ご協力ありがとうございました!